**釋空満寺通信**　平成二十七年八月号

　**ぶつぶつ**発責者　田中　誠土

**暑中お見舞い申し上げます。**

**猛暑警報・熱中症注意！**

室内における熱中症多発！

くれぐれも熱中症にならないように、水分と塩分を小まめに取りましょう。

**八月の行事**

★**精霊送り火**

精霊棚の周りに灯明を灯し、送り火供養の御札をかかげ先祖供養を致します。

受付に申込用紙は用意してあります。

**◎一灯明　千円にてお盆供養致します。**

　一家　灯明の数に制限なし

　**八月十五日　夕方六時半予定**

**▼　本山　遥拝殿　（参加自由）**

**▼　別院　本堂内　（参加自由）**

★**地蔵盆（お地蔵さんを供養するお盆）**

**八月二十三日　日曜日　午前十一時**

**本山　本堂内　（参加自由）**

**別院　本堂内　（参加自由）**

 行事の後には、御接待の用意がありま

　すので、ゆっくりして下さい。

★**管長面接日・その他の日程**

　**東京　二・三日　面接日**

**大阪　五・六日　面接日**

**本山　九日・十九日 面接日あります。**

**宮崎　二十六日　面接日**

**別院　二十七日　面接日**

　その他の地区の面接はありません。

　▼別院・御水取法会もありません。

★**お盆月**

八月は東京などの一部を除いてお盆の

行事を行うのが全国的な風習でしょう。しかし、このお盆行事が近年徐々に少なくなっているのが寂しいです。

　古来お盆は、『仏説盂蘭盆経』の目連尊者の説話に基き、先祖霊を死後の苦しみの世界から救済するための先祖供養です。

期間は陰暦の七月十三日から十五日（又は十六日）当山では新暦の八月十三日から十五日に行いますが、地域によって違いがあります。

▼**新盆（にいぼん・あらぼん）とは？**

通常四十九日の満中陰が過ぎて初めて迎えるお盆を新盆と言います。故人への追慕の念も強く、普通の盆より盛大にお飾りし供養致します。親戚・身内から送られた提灯を末広がりに置くようにします。

　また、盆踊りや精霊流しなども新仏（し

んぼとけ・亡くなってすぐの御霊）を、

慰め供養するための行事です。この新盆

の供養も一周忌・三回忌などの追善供養

と同じで、故人の霊は供養を重ねられて

だんだんと鎮魂されていくのです。これ

は我国独自の霊魂観なのかも知れません

が、神仏習合の考え方で、亡くなってす

ぐまたは短期間の霊魂は「荒御魂」（あら

みたま）つまり荒れた御魂なので、暴れ

たり祟ったりすると考えられました。

　そこで追善供養などの鎮魂と言う儀式

を行って霊魂を鎮めるのです。この供養

を重ねて行ったらやがて御魂は「和御魂」

（にぎみたま）となり、先祖の霊魂と同

化して先祖霊となり、子孫や地域を護る

守護霊となっていくのです。つまり段々

と仏様に近づいていくのです。

▼**近い先祖と遠い先祖**

先祖とひと口に言っても、その数は膨大です。当山で言うところの先祖とは、記憶にある人を先祖として思いなさいとしています。

　しかし記憶にあるけど命日までは覚えていない事の方が多いのではありませんか？両親や祖父母くらいまでなら命日も覚えているかも知れませんが、曾祖父母になると分からないが本音でしょう。

　つまり、遠い先祖は年忌法要なども遠くなりますので、なかなか供養を受けられないのです。そこで日本では春秋のお彼岸とお盆に、遠い先祖様も含めて家に帰って来られて供養を受けられるとしました。

▼**供養するとどうなる？**

故人はこの世で受けた傷や病気の痛み

がしばらくの間は残っています。それは次第に癒やされてはいきますが、供養をされている人はその回復が早くなるのです。だから新仏は短期間に供養を重ねるのです。

　この世で供養をしてくれる人がいると、その温かな気持ちは新仏にも伝わり癒され和んでくるのです。

　供養とは「私はあなたのことを忘れていません。思い続けていますよ」とのメッセージを霊界に送る事です。そしてこの思いが霊界の御霊に届くと、その御霊は和み爽やかな気持ちとなり、やがて和御魂へと昇華して行くのです。

　供養をするということは、現世と霊界のコミニュケーションをはかることであり、供養を受けた霊たちはこの世にパワーを送ってきて、供養をした人を守ってくれることになるのです。簡単に言えば供養を沢山受けた霊は、その分力強くなっていて、この世に送るパワーも強く、その分守護力が強いと言えるでしょう。ここが大事な所でしょうね。

★**盆踊りの秘密**

　盆踊りはこの世の人が死者の霊魂と触れ合う手段だと言うことが意外と知られていません。歴史的には室町時代の「踊り念仏」から発生したようです。江戸時代になり、娯楽化がすすみ鉦や太鼓に三味線の伴奏が加わり、派手になって行ったようです。とは言え、当初の意味の死者供養の目的は失われることなく、現在までも続いています。（今は、この事を忘れて夏祭りのイベントと思っているかも知れませんが）

　また、盆踊りでは「お精霊さまが足を軽くする」と言われてきました。「お精霊さま」とは死者の霊魂、とりわけ先祖の霊魂ということになります。

　事実、盆踊りは長い時間、踊り続けてもおもいのほか疲れないのです。その理由は、踊り手と死者の霊魂が相通じ合う関係になり、俗に霊魂が乗り移った状態になり、踊り手は疲れを感じないのです。

　さらに興味深い話に、踊り手が一生懸命に踊ると、お精霊さまの足が軽くなり、あの世とこの世の間を、早く行ったり来たり出来るようになるとも言われています。ここに、普通の人が盆踊りで死者の霊魂と親しく接することが出来ると言う、不思議体験が盆踊りの秘密なのです。

★**日本人の霊魂観**

　先述した通り、日本人の伝統的な霊魂観では、死者の霊魂は供養を続けていけば、ある時点で個性という執着から脱し、先祖霊という安定した状態になると考えられ、それが生者にとっても、死者の霊魂にとっても、ちょうどいい距離感であって、もっとも幸福なあり方とみなされています。今月はお盆、九月はお彼岸と先祖供養に関わる月が続きます。どうぞご供養をお忘れなく！　　　　　合掌